

富士フイルム(株)富士宮事業場 サステナビリティレポート 2022

ご挨拶

富士フイルム富士宮事業場は世界文化遺産富士山の南西山麓に位置し、清澄な空気、豊富な湧水の恩恵を受けて操業しております。1963年の創立以来、地域やステークホルダーの方々にはご理解とご支援を賜り、深く感謝しております。

私たちは事業活動に伴う環境への影響を正しく認識し、廃棄物削減と資源循環の促進、化学物質の適正管理、カーボンニュートラルの実現、及び地域の環境保全などに全力で取り組みます。今後も、新たな価値創出に取り組み、世の中のさまざまな社会課題解決、SDGsなどに積極的に貢献していきます。

一昨年から新型コロナウイルス感染症対策のため地域の皆さまとのコミュニケーションの場が減っております。今後、感染状況を注視しながら、各種行事を再開したいと思っています。

2022年9月
富士フイルム(株)
富士宮事業場長
土田秀世



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



*このレポートは、富士フイルム(株)富士宮事業場(関連会社含む)の環境・安全及び地域とのコミュニケーションについて、2021年度の実績をまとめたものです。対象期間:2021年4月~2022年3月

富士宮事業場の概要

創立	1963年10月16日
所在地	〒418-8666 静岡県富士宮市大中里200番地
主要生産品目	医療及び工業用X-レイフィルム、各種機能性フィルム、抗菌材料
マネジメントシステム	ISO9001、ISO14001、ISO45001 認証取得統合プログラム プレミアム・ステージ(上位認証)
2021年度概況	生産金額 597億円、従業員数 1,128人(関連会社含む、2021年3月末時点)
	事業場敷地面積 358千m ² 、事業場建物面積 129千m ²

環境負荷概要

主要原材料

PET原料、ゼラチン、硝酸銀など 30,685t

エネルギー

重油・灯油	17,789 kL
購入電力量	243 MWh
天然ガス	46,768 千Nm ³
水	11,908 千m ³

主要製品

X-レイフィルム、各種機能性フィルムなど 22,788t

環境成績

大気排出	VOC185t、CO ₂ 132千t、SO _x 2.7t、NO _x 113t
排水量	12,868 千m ³
排水水質	BOD 10t、COD 30t、SS 9t、総リン量 0.3t
一般廃棄物	23t、産業廃棄物 1,762t、有価物率 63%



環境保全活動の概要

大気	各項目とも法令及び富士宮市との公害防止協定の計画値以下でした。
排水	法規制及び公害防止協定より厳しい事業場管理基準値を設け、各項目とも基準値以下でした。
ゼロエミッション	単純焼却・埋立ゼロの「ゼロエミッション」を継続しました(2001年以降継続中)。
環境モニタリング	定期的な地下水モニタリングにより、土壌や地下水の水質に問題ないことを確認しました。

【特集1】廃棄物削減プロジェクト

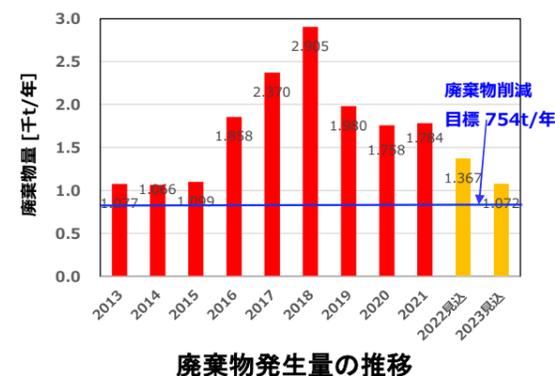
富士フイルムグループは2030年をゴールとした中長期CSR計画「Sustainable Value Plan2030(SVP2030)」の下、革新的技術・製品・サービスの提供など、事業活動を通じた社会課題の解決により一層取り組み、サステナブル社会への実現にさらに貢献する企業を目指しております。特に2021年度は、廃棄物の有効活用による資源循環の促進に努め、大きな成果を得ることができました。

従来から、生産安定化や徹底した分別回収により有価物化や社内リサイクル化を推進してきましたが、2016年から始まった中国を始めとする海外の輸入規制強化などにより、従来有価物として買い取られていた物の多くが、廃棄物として扱われるようになってしまいました。このような状況下、富士宮事業場では技術的なアプローチにより廃棄物の大幅削減を図るプロジェクトを2020年下期より開始。2021年度は、主に下記施策により、2030年度の削減目標(2013年度より30%減:754t/年)達成に向け、大きく前進しました。

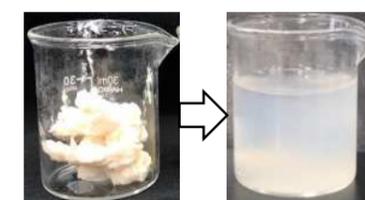
<主な削減施策>

- ・フィルムを取り扱いやすいチップ状の形態にして取り出すことによる、再利用価値の向上
- ・構内排水処理施設を活用し、液体の廃棄物を微生物により分解
- ・工程中で、生物分解性の高い組成に変化させて、構内排水処理設備で微生物により分解

今後は、既存製品に伴う廃棄物削減だけでなく、新製品開発時には、廃棄物が発生しにくい、リサイクルしやすい製品設計と開発段階でのリサイクル方法を検討により、廃棄物発生抑制に努めてまいります。



チップ化したPETフィルム



生物分解しやすい組成に変化させた副生成物

【特集2】遊休建屋、設備の解体

老朽化による倒壊等のリスク回避、将来の投資スペースの確保を目的に、遊休となっていた設備の解体、撤去を2021年10月~2022年3月に行いました。

我々の未来に向けて、遊休建屋・設備を一掃(Clean Up)する活動ということで、「UQCプロジェクト」と命名し、事業場一体となって活動をしてまいりました。

作業者の新型コロナウイルス感染予防をはじめとする解体作業者の安全管理、騒音発生抑制、アスベスト等粉塵飛散の防止など、安全、環境への最大限の配慮を行い、工事を実施いたしました。撤去後は、新規事業の立ち上げなど、有効な活用を検討してまいります。



落下音の発生する壁上部の解体は日曜日を避けて実施



粉じん飛散防止のための養生



太陽光パネル設置など跡地の有効活用を検討中

環境保全活動

1) 廃棄物削減と3R※推進 ※リデュース・リユース・リサイクル
【特集1】をご覧ください。

2) 水質汚濁防止

河川放流水の水質は富士宮市との公害防止協定範囲内であることを維持しています。

分析項目	単位	法令 規制値	静岡県 条例値	公害防止 協定値	工場 管理値	実績 〔2020年〕	実績 〔2021年〕
pH(水素イオン濃度)	-	5.8~8.6	5.8~8.6	6.4~8.3	6.4~8.3	6.7~7.9	6.9~8.0
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/l	最大 160 平均 120	30 20	9 6	9 6	2.7 0.7	1.5 0.7
COD(化学的酸素要求量)	mg/l	-	最大 30 平均 20	16 8	13 8	5.4 1.9	7.6 2.4
浮遊物質(SS)	mg/l	最大 200 平均 150	40 20	20 12	5 3	1.6 0.8	2.4 0.7
フェノール類	mg/l	5	-	-	5	<0.5	<0.5
大腸菌群数	個/ml	3,000	-	-	3,000	30	30

また、敷地内の地下水でもすべての物質が環境基準値内を維持しています。

3) 大気汚染防止

各設備共にばいじんと窒素酸化物の濃度は、法規制値と協定値未満でした。また、硫黄酸化物の総量規制値も法規制値と協定値未満でした。

法規制	設備	ばいじん(単位 g/Nm ³)			硫黄酸化物(単位 Nm ³ /h)			窒素酸化物(単位 Nm ³ /h)		
		法規制値	協定値	実績値	法規制値	協定値	実績値	法規制値	協定値	実績値
濃度規制	3号発電ボイラー	0.15	0.01	未検出	—	—	—	150	130	100
	5号ガスタービン+4号廃熱ボイラー	0.15	0.10	未検出	—	—	—	150	100	73
	7~9号ガスエンジン(発電機)	0.05	0.04	未検出	—	—	—	600	200	120
	10~12号ボイラー	0.10	0.05	未検出	—	—	—	150	55	14
	10~12号加熱器(ボイラー)	0.10	0.05	未検出	—	—	—	150	55	43
	J-1、2熱媒ヒーター(ボイラー)	0.30	0.10	未検出	—	—	—	180	130	76
	焼却炉4号機(ボイラー)	0.08	0.05	未検出	—	—	—	250	60	未検出
	2号発電ボイラー(予備設備)	0.15	0.02	未検出	—	—	—	210	150	83
総量規制	全設備合計	—	—	—	20.34	17.44	0.20	—	—	—

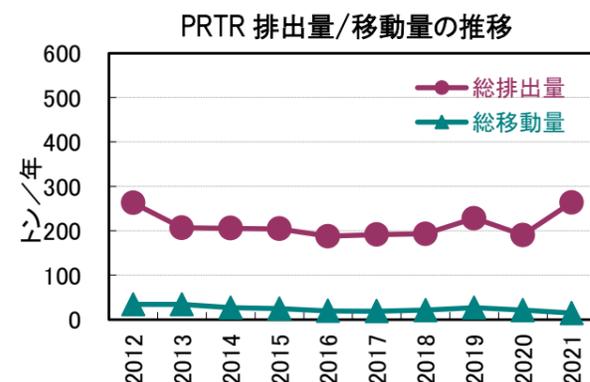
※ 協定値：富士宮市と締結した公害防止協定値。また、濃度規制と総量規制の数値は最大値です。

4) 化学物質の適正管理 ~PRTR 対象物質・自主管理対象物質の管理状況~

PRTR 法(化学物質排出把握管理促進法)に基づき、人の健康や生態系に影響を与えるおそれがあり、且つ環境中への排出量や移動量が年間1トン以上の化学物質について、毎年行政へ報告しています。

自主管理対象物質も含めた総排出量(大気排出と水域排出)、総移動量(廃棄物)は X-レイフィルム増産の影響で増加しました。土壌への排出はありません。

それ以外の原材料や研究・検査・工程管理用の化学物質についても、労働安全・環境保全・製品安全及び廃棄物管理などの総合的観点からリスクを評価、管理基準を設定のうえ使用するシステムを構築して管理・運用しています。



労働安全衛生

1) 労働災害ゼロへの取り組み

『全員で、職場のリスクを撲滅しゼロ災を実現する!』のスローガンのもと、毎月1日を「安全の日」と設定し、月毎にテーマを決めたリスク抽出チェックシートの実施と、安全意識を高める職場ディスカッション等を推進しました。

2) 交通加害事故ゼロへの取り組み

通勤途上の加害事故ゼロを目指し、ドライブレコーダー動画の配信や、交通安全クイズ、交通イラストでのKYTを推進する事で注意喚起を実施。交通事故抑制の意識UPに繋がりました。

3) 防災対策の推進

大地震後に建屋の安全性を確認する『建屋応急危険度判定』の訓練を実施しました。

4) 安全教育・講習会・講演会の実施

推進している深耕リスクアセスメント、KY 感度養成教室について、全国産業安全衛生大会で発表し、その取り組み内容を事業場外にも紹介しました。またこれらの活動が評価され、日本化学工業協会の「安全優秀賞」を受賞しました。

5) 心身の健康増進への取り組み

「禁煙」「生活習慣良化」「がん検診受診率向上」「メンタルヘルス」を柱として、従業員の健康増進への取り組みを展開しています。カウンセリングや保健師面談、社内食堂でのヘルシーメニュー提供による健康増進の支援、その他定期的な健康情報発信による啓発活動を実施しました。2021年度は特に「メンタルヘルス」対策に注力し、管理監督職に就く役職者を対象に『ラインケアの基礎』『パワハラ防止』『復職対応』をテーマに、計3回のセミナーを実施しました。

これらの活動を通し、富士フィルム静岡(株)が「健康優良法人 2022」に認定されました。

6) ワーク・スタイル・イノベーション(WSI)活動による働き方の変革

社内広報による啓発活動、有給休暇年間取得目標日数の設定、週2回の定時退社日放送等を通じて一人ひとりの意識改革を進め、併せて職場毎の業務効率化活動を進めて働き方の変革を推進しました。



全国産業安全衛生大会



建屋応急危険度判定

社会とのコミュニケーション

1) 事業場周辺の清掃

(2022年6月1日、参加者約500名)

事業場周辺道路や潤井川周辺などの清掃活動を行いました。その他、6月の環境月間に、環境教育、環境対策に繋がる提案活動、環境異常発生時の対応訓練、環境関係機器/設備の点検、廃棄物置場の点検と清掃などを実施しました。

2) 夏祭り、大中里地区環境対話集会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、今年度は中止にしました。

3) 環境フェア

新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大している状況を鑑み富士宮市が開催中止を判断。

4) 社外清掃活動への参加

静岡県産業廃棄物協会主催の富士山麓清掃活動への参加

5) 事業場見学受入

2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、受入を中止しています。

※新型コロナウイルス感染拡大の終息状況を見ながら、段階的に制限の緩和を進めていきたいと考えております。



事業場周辺の清掃



回収した廃棄物

このレポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願いいたします。
富士フィルム株式会社 富士宮事業場 環境グループ
TEL: (0544)26-7175 FAX: (0544)26-7176